第71回文化財展を開催しました！

今年度の文化財展は、『平成の発掘調査～まちのうつりかわりとともに～』をテーマに、11月20日～24日にかけて、せんだいメディアテークで開催しました。平成の時代を振り返り、この30年間に、どのような調査成果があり、その場所がどのように移り変わっているのかを、出土遺物や解説パネルを通じて16の遺跡を紹介しました。また、体験コーナーでは土器の掘り出しや接合の体験により、発掘作業の流れなどを紹介しました。

最終日には仙台市文化財課の長島栄一課長による『まちのうつりかわりとともに～仙台と遺跡発掘調査～』と題した記念講演会を開催しました。

会場の様子

体験コーナーの様子

記念講演会の様子

第72回文化財展は、令和２年5月26日(火)～7月26日(日)に東北電力グリーンプラザとうほく文化情報コーナーで開催予定です。

出前授業 出前講座

見て・聴いて・感じて発見！

仙台市文化財課では、小学校・中学校を対象に大昔の土器や石器、瓦など発掘調査で見つかった遺物を活用した出前授業を、市民の皆様を対象に仙台や地域の歴史について文化財を通して知っていただく出前講座を行っています。

今年度も、縄文・弥生・江戸時代を中心に、地域にある身近な遺跡にもふれながら、たくさんの授業を行いました。地域の歴史を見つめる地域主催の出前講座も好評でした。文化財課職員がポイントをしぼって、仙台の魅力、歴史の奥深さを紹介いたします。授業で、講座で、私たちの身近にある歴史を感じていただければと思います。

お問い合わせは、文化財課整備活用係(TEL 022-214-8893)まで。

仙台市文化財課のホームページには、市内遺跡の紹介、最新の文化財情報などが掲載されています。
https://www.city.sendai.jp/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/bunkazai/

文化財 せんだい

No.126
令和２年(2020年)２月発行
仙台市教育委員会文化財課
仙台市青葉区上杉一丁目5－12
上杉分庁舎 10階
〒980-0011 Tel:022-214-8893

発掘調査・遺跡見学会を実施しました！

長楯城跡（ながたてじょうあと）

長楯城（ながたてじょう）は戦国時代に秋保（あきう）地区の大部分を治めていた秋保氏の本城です。城内には道の両脇に家臣の屋敷が配されており、最も奥の曲輪（くるわ）に秋保氏の居屋敷（きょやしき）がありました。また城の入り口部分や各曲輪の境は土塁（どるい）や門などで区画されていました。

今回の発掘調査は令和元年8月から実施されました。調査地点は城跡南側の居屋敷と重臣屋敷を区画する土塁の一部に当たります。調査では土塁に隣接して、幅約11mの堀跡が発見されました。ここでは堀の一部を人為的に埋め戻して土橋を構築し、その裾部分等には石積みが施されていました。また土塁の表面にも石積みが施されている可能性が高いことも判明しました。これらが構築された時期は不明ですが、秋保氏が居を構えていた時期のものと推定されます。

遺跡見学会の様子

このように大量の石を用いて城の区画施設を構築した例は、近隣の豊後館跡（ぶんごたてあと）でも確認されていますが、発掘調査で確認されたのは初めてです。10月26日に開催された遺跡見学会では、地域の方々を中心に90名の皆様にご参加いただきました。担当職員の説明に耳を傾けながら、かつての長楯城の様子に想いを馳せていたようでした。

陸奥国分寺跡（むつこくぶんじあと）

遺跡見学会の様子

若林区木ノ下にある陸奥国分寺跡は現在確認できる最北の国分寺跡で、大正11年に国史跡に指定されています。また境内には、慶長12年(1607)に伊達政宗が陸奥国分寺を再興した際に建立した薬師堂（国指定有形文化財）があります。

境内にある鐘楼（しょうろう）は仙台市登録有形文化財に登録されていますが、長年の経年劣化や東日本大震災により倒壊の恐れがあることから、解体・復元工事を行うことになりました。

建物を解体したところ、径が1m以上もある巨大な礎石（そせき）が姿を現しました。建物の規模に対して、礎石が大きいことから、古代の国分寺の建物の礎石を転用した可能性が考えられます。また建物の基礎には、大量の川原石（かわらいし）や古代と近世の瓦の破片が入れられており、平成17年に発掘調査が行われた仁王門の基礎構造とは異なることがわかりました。

令和元年11月30日に開催された遺跡見学会には約100名の市民の皆様にご参加いただきました。当日は発掘調査の説明に加え、建物の解体でわかったことの説明も行いました。

速報！仙台発掘調査

仙台城跡

今年度は、巽門北側の築城期の登城路跡を調査しました。調査では巽門西側にある石垣の延長部分で新たな石垣を検出しました。石垣は、長さ約4m、高さ約60cmで、南北方向から北西方向に屈曲していることを確認しました。石垣に伴う整地層から19世紀の遺物が出土したため、この石垣は江戸時代の終わり頃から明治時代にかけて造られた、または修復された可能性があります。

この他、三の丸土塁の調査も行いました。

新たに確認した石垣

郡山遺跡

発見された掘立柱建物跡

郡山遺跡はJR長町駅の東側から国道４号線バイパスの間に広がる縄文時代から平安時代にかけての遺跡です。これまでの調査で多賀城が造られる前の陸奥国府があったことがわかっています。今年度は東日本大震災以来中断していた史跡内の調査を行いました。調査では、掘方の一辺が80～140cmもある方形の柱穴からなる掘立柱建物跡が見つかりました。調査区が狭かったため建物の大きさなどは不明ですが、今後も調査を継続し、郡山遺跡の役所の構造や性格を解明していく必要があります。

長町駅東遺跡

長町駅東遺跡はJR長町駅の南東に位置する弥生時代から奈良時代にかけての遺跡です。これまでの調査で、古墳時代から奈良時代の竪穴住居跡が350軒以上発見されています。今回の調査でも、当時の竪穴住居跡が150軒以上見つかっています。これらの竪穴住居跡からは土師器や須恵器のほか、生活の道具が多数出土しており、東側に隣接する郡山遺跡にあった古代の役所の造営・運営に関わった人々の集落と考えられています。

重なり合った竪穴住居跡

この他にも、沖野城跡（若林区）、山田上ノ台遺跡（太白区）、安久東遺跡（太白区）など多くの遺跡で発掘調査を行いました。

令和元年度文化財サポーター養成講座（第12期）

文化財の保護と活用を支援するサポーターの養成講座を全10回にわたり実施しました。

応募を頂いた23名の受講生の方々には、仙台城下のまち歩きや文化財、施設の見学など様々な講座を通して、仙台の文化遺産にふれていただきました。

次年度も実施予定です。詳しくは市政だよりなどを通して、お知らせします！

第2回講座
「ぶらり仙台城下町めぐり」

第4回講座
「発掘体験」

第5回講座
「市内の政宗関連文化財めぐり」

「万葉集の時代」 第３回

2019年5月1日、改元によって新しい時代が始まりました。「令和」は万葉集に由来しています。
ここでは、万葉集の時代と関わりのある仙台市内の遺跡を、歌とともにご紹介いたします。

「この雪の　消残る時に　いざ行かな　山橘の　実の照るも見む」　（巻十九 4226）

「（雪解けが始まり）この雪が　消えてしまわないうちに　さあ行きましょう。
山橘の　真っ赤な実が雪の白に照り映える美しさを見に。」　大伴家持

万葉集の編者、大伴家持は天応２年(782)、65歳の時に陸奥国府の多賀城に赴任しました。多賀城で詠まれた歌は残っていませんが、家持33歳の時に越中（現在の富山県）でこの歌を詠んでいます。山橘はヤブコウジ科ヤブコウジのことで、低木の常緑樹です。夏に小さな白花が咲き、秋には赤い実がなり、冬の間もずっと実をつけています。冬の雪降る多賀城にも、ヤブコウジは真っ赤な美しい実をつけるそうです。冬の多賀城で雪景色を見ながら、家持は越中で過ごした冬を思い出していたのかもしれません。

◇台原・小田原窯跡群（青葉区・宮城野区）

大伴家持が赴任した多賀城には、当時の陸奥国の国府が置かれていました。この陸奥国府と前号で紹介した陸奥国分寺の建物屋根の瓦を生産していた窯跡が、台原・小田原窯跡群です。仙台市街北側を西から東にのびる台原・小田原丘陵の南斜面に分布し、青葉区台原・小松島、宮城野区蟹沢・二の森・枡江・安養寺・東仙台の広い範囲にわたり窯跡が散在する東北最大級の窯跡群です。古墳時代中期の須恵器生産から、昭和初期の堤焼まで、長期間にわたる一大窯場となっており、最盛期の奈良から平安時代には陸奥国の官窯として多くの窯が操業していました。窯跡群の１つの与兵衛沼窯跡は、都市計画道路の建設工事にかかわって調査が行われました。貞観11年(869)の陸奥国大震災で被害を受け、その震災復興のための瓦を製作した窯と考えられています。

与兵衛沼窯跡（西から）